

虚子記念文学館投句特選句

・令和三年五月

稲畑汀子 選

新茶汲むつひの雫の音たかく

兵庫 武田優子

しろがねの山女くがねの水飛沫

兵庫 武田奈々

(青少年)

虚子のこと問ふインタビュ―館涼し

新潟 安原 葉

卯浪寄す太棹の音の響く如

兵庫 小杉伸一路

木洩日もそつと包んで袋掛

兵庫 藤澤みか子

若葉風文学館に調べもの

兵庫 藤井啓子

母の日の遠し手伝券の色

兵庫 大西美知子

夕立やもう加はれる音のなき

神奈川 進藤剛至

母の日や路傍に摘みし花一輪

兵庫 高市敦之

集まりし句会や五月闇灯し

大阪 辻田あづき

入選句・令和三年五月

虚子館のベンチ輝き夏に入る	大阪	山下幸典	初夏の風六甲の山から芦屋浜	兵庫	阿曾宏之
沢に活け牡丹の卓に取る朝餉	兵庫	玉手のり子	村里は何処の庭も柿若葉	石川	辰巳昌彦
鶴塚に及ぶ五月の光かな	兵庫	平田 恵	耕の鋤自転車の後ろ籠	兵庫	キートスばんじょうし
見届けに行かな吉野の遅桜	大阪	生澤瑛子	辿り着き館の水音に薄暑解く	兵庫	山之口倫子
若葉風乗せ水美しき芦屋川	石川	辰巳葉流	夏河原瀬音清しき散歩道	大阪	西尾浩子
軽やかな庭師の動き更衣	兵庫	池田雅かず	飛行機雲伸ぶる大空夏つばめ	兵庫	山谷彰子
舟芝居果て昂りの揺れやまず	兵庫	辻 桂湖	青梅のさみどり限りもなく無垢	大阪	地引民子
葉桜や風を無邪気に遊ばせて	兵庫	深尾真理子	濡れそめてより大胆に水遊	兵庫	田村恵津子
屋上に大きなシート干すうらら	兵庫	永沢達明	ゆかりの名の残る街並業平忌	兵庫	長谷元子
淡酔して香りそのまま食む牡丹	鳥取	前田 千	梅雨晴間水は豊かに芦屋川	兵庫	光山恵子
子を叱る来世はきつとごきぶりと	兵庫	槌橋眞美	梅雨晴や不意な誘ひにもう乗りて	兵庫	岸本美恵
ファールブルを目指せと蟻の道を追ふ	兵庫	岩水ひとみ	海風や朴高々と揺らぎをり	大阪	杉山千恵子
公園の舞台の廻り葉桜に	兵庫	伊藤秀子	一翔の大きな影や梅雨鴉	兵庫	宮本露子
薔薇に来て華やぐ風でありにけり	大阪	辻 昌子	神代より水の滴る洞の中	京都	西村やすし
斑少しあるもうれしや柏餅	兵庫	山岸正子	誰彼も赦す度量や姫女苑	兵庫	片岡橙更
夭逝の母には美しき母の日も	兵庫	三木雅子	更衣どれか捨てねば片付かず	兵庫	高橋純子
母の日の遺影や常より笑み深し	兵庫	山崎渺美	彫り深き細雪碑に迷ふ蟻	大阪	田邊育子
大牡丹自刃の如く崩ほるる	兵庫	三村純也	夏野原富士ちんまりと在しけり	埼玉	土井洋子
初夏や雲厚くとも浜に人	兵庫	長安悦子	諷詠を紡ぐ緑蔭汀子句碑	京都	杉森大介
鳥語して赤き実消えし春の朝	兵庫	小川孝子	雑魚散りて残る濁りや花曇	神奈川	金子三奈乃
葉桜やひとつ外れし補助車	神奈川	平野孤舟	さりげなく妻の淹れたる新茶かな	東京	宮村土々
記念樹に雨だれ零るつりりかな	兵庫	奥田好子			
俳磚の碧を深めて若葉雨	兵庫	吉村玲子			
草笛やてくてく歩き君笑ふ	東京	三球			
宮址をつばめの円舞茜空	奈良	堀ノ内和夫			
初夏を駆けてサドルの修道女	神奈川	小堀公美子			
父の日や男三代酌交し	石川	伊東弥太郎			
蚕豆や眉毛の長き修道士	東京	南方日午			